

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 多田 智 (主幹兼国道係長 北村 昭二)	内線	4 3 6 2 (4 3 7 4)
------	-------------------	---------------------	----------------------------	----	----------------------

事業種目	道路事業	事業名	事業区間	総事業費	約2.5億円
		国道373号特殊改良事業 のぶよし 延吉道路	さよう さよう のぶよし 佐用郡佐用町延吉地内	内用地補償費	約0.2億円
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
さよう さよう のぶよし 佐用郡佐用町延吉地内			平成18年度	平成18年度	平成21年度
事業目的			事業内容		
<ul style="list-style-type: none"> 中国横断自動車道姫路鳥取線（(仮)鳥取自動車道、無料）と国道373号を直結する(仮)佐用北IC（北向きハーフランプ）の設置により、佐用町市街部から大原・鳥取方面へのアクセス向上を図る。 事業地(延吉)～岡山県境間の国道373号は、狭い谷筋を縫うように伸びており、局部的に線形不良箇所があり、区間の約半分が歩道未整備であるため、県境部の通過交通が姫路鳥取線に転換することで、結果的に当路線のバイパス機能を担う。 			(仮称)佐用北インターチェンジ（北向きハーフランプ） L = 530 m オンランプ L = 350 m , W = 3.25 (5.5) m オフランプ L = 380 m , W = 3.25 (5.5) m 国道373号 L = 245 m , W = 6.5 (10.5) m 【計画交通量】 5,200台/日 【現況交通量(H11センサ)】 3,369台/日 【負担割合】国：5/10 , 県：5/10 【施工区分】国：本線（新直轄方式） 県：わ・わランプ、国道交差点		
評価視点		評価結果の説明			
(1)必要性 交流の促進		<ul style="list-style-type: none"> 県内の国道373号と無料の中国横断自動車道姫路鳥取線（以下「姫路鳥取線」という）に直結することにより、佐用町市街部から大原・鳥取方面へのアクセスが飛躍的に向上し、広域的な交流・連携強化が図られる。 (仮称)佐用北IC～(仮称)大原IC間の所要時間：12分 7分 			
安全・安心の確保		<ul style="list-style-type: none"> 事業地(延吉)～岡山県境間の国道373号は、狭い谷筋に伸びており、局部的に線形不良箇所が存在し、区間の約半分が歩道未整備であることから、県境部の通過交通が並行する姫路鳥取線に転換することにより、現道の交通安全性の向上が図られる。 過去5年間の交通事故件数：140件（年平均28件） 			
(2)有効性・効率性 有効性		<ul style="list-style-type: none"> 追加インターチェンジの設置のみで無料の姫路鳥取線本線が利用可能となる。 姫路鳥取線整備済で追加ICの設置の場合の費用便益比【参考値】 $B / C = 34.4$ 			
代替性		<ul style="list-style-type: none"> 当該地域の広域的な南北交通を担う国道373号で姫路鳥取線と接続することで、効果的に広域ネットワークが拡充される。 			
効率性		<ul style="list-style-type: none"> 関連事業である姫路鳥取線は、国土交通省によって順調に事業が進められており、地元の理解、佐用町の協力等、円滑な事業執行環境が整っている。 			
(3)環境適合性		<ul style="list-style-type: none"> 切土、盛土法面の緑化では、地域の植生に配慮し、周辺環境との調和を図る。 			
(4)優先性		<ul style="list-style-type: none"> 姫路鳥取線（佐用ジャンクション～大原インターチェンジ間）は、平成21年の供用開始を目途に国土交通省が新直轄方式で、鋭意整備を進めている。 姫路鳥取線本線の工事計画とあわせ、本線と交差するオンランプ函渠工等を早急に築造する必要がある。 			